

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0196400071.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様お一人おひとりの「ありのまま」を受け入れ、・安心で居心地の良い生活の場を提供出来るよう思いを大切に、・お一人おひとりに合わせた介護を提供出来るように「笑顔」を大切にという気持ちと体調の変化や心の変化を見逃さないように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0196400071-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの施設や近隣の環境；ホームは南に面し明るく、居間を中心に居室が配置され、介護設備の活用の利便性も良い。商店街も近く買い物・家族との会食等にも便利な環境にある。2)職員の介護の態度や姿勢；職員はホームの理念を理解し、利用者本位の介護姿勢に徹し、優しく、笑いの多い雰囲気づくりに努めている。3)利用者家族の満足；家族アンケートは職員の介護姿勢に安心し、担当職員のおたよりなどで、日常生活の状況報告等に満足している。4)ホームの運営；運営推進会議は定例に家族・地域関係者を含めて開催し、ホームの季節的行事や運営状況の課題を明示して、参加者の意見を運営に反映している。5)地域等との関係；地域の代表関係者の運営会議への参加、地域諸行事の協働や参加、防災対策等の密接な協議と協力関係を強めている。

Large table titled 'V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)'. It contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) with columns for item description, criteria, and results. Includes a note: ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を達成する為に具体的にどうしたら良いのか検討している。	理念は室内に掲出、「家庭のようにゆったり、安心した話し合いができ、利用者と共に生活の場を作る」として、職員は理念を共有し、実践に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域に根差す地盤作りを行い町内の役員と協力し交流や緊急時の協力体制を構築している。	地域の関係者の協力関係を基盤に、地域の諸行事への参加、防災体制や医療機関との連携等、また運営推進会議への積極的な協力を得る関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から相談や質問に応じ介護知識・技術を活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は定期的開催され地域との連携など、具体的内容について話し合い、そこでの意見を活かしています。	会議は定例に開催し、家族・地域関係者を含み、隣接で同じ経営の高齢者住宅等と一緒に協議して地域の協力・連携の具体化を検討するなど、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは日常業務を通じて情報交換を行い協力関係を築くように取り組んでいます。	窓口行政とは定例報告や情報交換、医療等関係機関の施策連携、防災関係機関との連携等での具体的対応に努め、ホームの利用者本位な活動に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止 身体拘束防止について 管理者及び職員は共通の認識を持ち、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が関係機関による介護研修・その成果を共有するなど、拘束・虐待禁止の基本を学び、利用者が尊ばれ、個々の生活が豊かで、楽しいものとなるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に2回全体ミーティングを利用し、身体拘束及び虐待についての学習会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度への研修に参加し知識を深めていけるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要事項説明書、利用契約書、同意書を用いて丁寧に説明し確認しながら納得頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情などのアンケート用紙を用意しご家族が言い表せる機会を設け話し合い対応するよう取り組んでいます。	運営推進会議は家族の参加を求め、アンケート調査を行って意見の収集、家族の訪問時の話し合い、さらに、月例の居室担当者からのおたよりなど、ホーム運営状況や個々の生活状況を周知して、家族の意見等の反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや管理者会議等を通して職員の意見や要望及び提案を聞く機会を設けている。	月例の職員会議は業務上の意見・反省、職員相互の共有情報の交換に努めて、利用者支援に生かすほか、個々の勤務状況等の調整を行い働きやすい職場環境づくりに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則がある。 資格修得や研修評価、勤務状況を上司から報告を受け対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内で管理者の会話を通し理解を図り、希望の研修が受けられるように職員の希望を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多事業との交流を図り勉強会の参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居時ニーズに合わせたケアプランを作成し、ご本人の要望を理解し受け入れる姿勢を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談、情報収集しご家族様が望んでらっしゃる入居者との今後の関係性などを構築出来るよう支援する事を説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明時点での丁寧な説明と要望を傾聴する中で、介護計画に反映させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者同士「居心地の良い生活の場」と安心して「思い」を引き出せるように支援します。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に本人の今の状況を報告しご家族様の要望を聞きながら、ご本人様にとって一番良い支援が出来るよう実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人の面会で今までの関係が維持出来るよう又従来通りの美容室等へ通って頂けるよう支援している。	家族の訪問頻度は個々により異なるが、外泊、外出、外食など家族と共にする意向を活かすよう支援している。居室には家族の思いの飾り物や仏壇など馴染の配慮がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの人間関係、自信を取り戻し、笑顔が増え人と人との関わり合いを楽しめるように働きかけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居困難になられた場合 ご家族様から相談があれば対応させて頂いています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施し一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、ご本人本位に取り組んでいる。	個々の意向・望み・経験・家族関係等アセスメントでの状況を捉え、職員が共有して、利用者の日常での、個々の状況に適切対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接前担当ケアマネから情報提供や、入居前後ご家族から伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリング及びアセスメントを通して現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に担当職員とのケア検討会議は時間をかけ利用者にとって快適な生活が維持出来るよう検討を行っている。家族や職員からの意見を大切に現状に即した介護計画作成に反映している。	介護計画に基づきモニタリングの結果等を月例職員会議等で協議し、改定時にはケアマネージャーの示唆・確認をえて、解決課題を記録し、見直し、家族の意向を大切に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の引継ぎ時、課題やポイントを明確にする取り組みをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の送迎や受診介助 現状のニーズに沿った支援内容。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事計画を作成し様々な外出支援を実施している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携がとられている医療機関の月2回の訪問診療、健康観察が行われホーム生活上での健康管理がなされている。又受診後はご家族に報告をしている。	かかりつけ医との関係は本人と家族の納得を得て、指定病院との月2回の訪問診療、健康観察を行い、また、症状に応じた市立病院(総合診療体制)との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、日常の利用者の身体状況を職員が常に確認し、少しでも変化があった場合は毎日来られる訪問看護師に伝え適切な受診をより早く受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医との連携もスムーズで早めの対応が出来る。入院中の訪問を行い病状などのお話を聞き、又退院時施設の都合なども聞いて頂き、日程調整も可能になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療連携に伴う指針、方針を定め同意が得られている。終末ケアについては嘱託医や家族と十分に話し合い要望があれば対応する体制となっている。	重度化・終末期対応は医療連携に伴う指針に合わせ、契約時に連携医療機関や家族との協議の上、具体的な対応を図るよう承諾を得て明文化している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助、救急救命については熟知しておらず、今後の課題として第一に考え周知していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(日中、夜間想定)や防災機器の点検を行っている。 地域との協力体制も構築し、一緒に訓練に参加して頂いている。	災害等の対策は防災機関との情報や協議の下に、地域の協力も得て、年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議での重要課題でもあり、がけ下にあるホームの状況等多様な災害を想定して対応に努めている。	近年、災害は想定できない被害も多く、今後とも、ホームの組織全体での体制強化と共に、防災関係機関や地域の住民防災体制の協力関係の維持を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時、入居者様の人格を尊重しプライバシーにも配慮しながら対応している。	職員相互は利用者個々の尊厳やプライバシーの確保等研修を重ねて共有に努めている。具体的には排泄時の対応、個々との対話等で尊厳を損なうことのないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護員を介し服を選んだり、外出の希望等声掛けを行い、自己決定が出来るよう取り込んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを重んじ、今日はどのように過ごしたいかは、ご本人様が決められるように、又生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度理容訪問をお願いしている。又入所前に通われていた昔馴染みの美容室に行かれる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻みやミキサー食の利用者様にも楽しんで食事をして頂けるように、献立を考えている。食事後は食器拭きや、コップ洗い等を手伝って頂いている。	食前での和やかな雰囲気づくりや利用者の配置や職員の個々対応に留意。献立は個々の心身の状況に応じた刻み食等の配慮に努めている。また、食事後の片づけなどの手伝いを得て食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録の食事・水分量をチェックし、その都度声掛けを行い勤めている。又食事摂取量が少なく栄養確保が出来ない利用者様には、食事介助を行い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じるが、職員が見守りや介助にて口腔ケアを実施している。又義歯に関しては毎晩回収し洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時チェックし介助が必要な方については失敗を減らせるよう定時トイレ誘導をしている。なるべくトイレで排泄して頂けるよう検討し実施している。	職員は個々の心身や排泄の状況を共有して、適切な排泄の支援となるよう、声掛けや、定時トイレ誘導、水分補給などに留意している。自立支援の方途としてトイレ排泄に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は全員に牛乳を提供し飲んで頂いている。毎日体を動かす体操や個人的に歩行訓練等を行っている。1日の水分摂取量にも注意をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、週2回は入浴できるようにしている。体調に合わせてゆっくりと落ち着いて入って頂けるように配慮している。	利用所個々の心身の状態や意向を踏まえ、体調に合わせたゆったり、楽しい入浴となるよう毎日実施している。個々には週2回の入浴に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に決めておらず、利用者様に合わせた就寝介助を行っている。テレビを観たり、本を読んだり、その人に合った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の管理は2名の管理者が行っている。薬剤師などに相談・説明を受け、申し送りノートなどで職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートにて生活歴を把握し、能力が発揮出来る機会を日常生活の中で取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に添って散歩や買い物等に出かけられるよう支援している。 御家族様の協力も得ている。	外出は個々の意向に応じて散歩や買い物時の支援に努めている。家族の意向も大切にしたい。外食、宿泊の機会等家族の協力を得ながら、個々の生活が多様な機会となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭はご家族管理、施設として預り金を管理し、必要に応じて個人個人の財布に入れ買い物をし、管理する。 出納帳をコピーし領収書をご家族に毎月送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連携し、ご自分で電話をかける事が出来ないため、必要に応じて取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活で家庭の延長が出来るような工夫をし、リビングや廊下の壁には、季節毎の飾りをし、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用の場はホームの中央に位置している。南に面して大きく開かれ、明るく、テレビ等の設備配置、季節や行事に応じた室内装飾、手作りカレンダー等、家庭的配慮の工夫が込められている。利用者は居室より、居間での共同の生活を好み、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファが数多くあり、気の合う方と隣同士に座り、談話されたりしている。又ホール内には椅子も常時設置している為、一人で過ごされる空間も作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や布団、仏壇や家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は清掃が行き届き、きちんと整えられている。居室の雰囲気づくりは家族の意向を伺い、馴染み多い家具調度の利用や配置に留意するとともに、家族の写真や趣味を生かして飾り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、手すりが広範囲に設置されている為、行きかう際にもぶつかる事なく移動され、思いのままに歩行運動をされている利用者もいる。		